

AUDEMARS PIGUET

クロノス日本版
Chronos
[2018年7月号 別冊付録]



ロイヤル オーク オフショア
誕生25年のクライマックス

CONTENTS



見出しタップ・クリック：該当ページにスキップ

ロイヤルオークオフショア 深化と革新の最高潮

ニューアイコン誕生秘話 四半世紀の格闘

ROYAL OAK OFFSHORE CHRONOGRAPH 1st Model

ROYAL OAK OFFSHORE CHRONOGRAPH New Models

ROYAL OAK OFFSHORE 2018 New Models

AUDEMARS PIGUET SUPERLATIVE COMPLICATIONS

TOURBILLON EXTRA-THIN

ROYAL OAK

The New Museum Is Coming Next Year

AUDEMARS PIGUET 2018

CONTENTS

オーデマピゲ

ロイヤルオークオフショア
誕生25年のクライマックス

▲ INDEX ▼



いよう。微妙に角が磨きされている。
この10年、オールドメキはケースの内製化を進めてきた。その結果、ケースの仕上げはさらに向上し、形状もより複雑になった。ケースを親作する担当者がいわく、「検査は最低100カ所。その場合は10ミクロ以内」とのこと。その帰結が、18年のオアショアットールビヨンクロノグラフと言えだらう。

ロイヤル オーク オフショアのプラグ
シップモデル。その革新性を強調すべ
く、ベゼルを留める8つのヒスでムー
ブメントを固定する。ムーブメントの部
品点数は353個。手巻式(Cal.2947)。
30石。2万1600振動/時。パワーリ
ザーブ約173時間。SS(直径45mm)。
100m防水。世界限定50本。他に
18KPGモデル(表紙に掲載)がある。
いずれも時価。

ロイヤル オーク オフショア
トゥールビヨン・クロノグラフ



複雑な造形を持つケースサイド。リュウズとプッシュボタンの一部はセラミックス製である。工作機械のみで加工される量産品ではかなえられないエッジを持つが、すべての角には100分の5mm程度の丸みが付けられている。そのため、角張ったデザインにもかかわらず、シャープの拍を傷めることはない。



極めて立体的な造形を持つロイヤル・オーク・オフショア・トゥールビヨン・クロノグラフ。その一因は、文字盤側の地板を廃し、受けて香箱などを支えたため。モダンな造形を持つが、仕上げはすべて手作業である。とりわけ、受けの内側の四角い肉抜きは、工作機械では決して与えられない造形だ。

ロイヤル オーク オフショア 深化と革新の最高潮



今 年、25周年を迎えたロイヤル・オーク・オフ・ショア。当初、オーデマ・ピゲにレクイエム化の予定はなかったらしいが、今や同社を代表するコレクショナルに成長を遂げた。形状こそオリジナルの面影を残すが、最新のオフショアは、中身もムーブメントも別物だ。

そんなロイヤル・オーク・オフショアの今を体現するのが、2018年発表の「ロイヤル・オーク・オフショア・トゥールビヨン・クロノグラフ」である。クロノバール・ランドアン・バスターを絡めるグロウ・デュー・オ・カヴァリエールが「25周年を祝うべく、オフショアの持つ革新性を強調した」と語つたように、本作はオフショアの中でもとりわけ革新的な造形と凝った仕上げを持つている。

ベースとなったのは、14年に発表された「ロイヤル・オーク・オフショア・トゥールビヨン・クロノグラフ」約7日間とい

今年、発表25周年を迎えた「ロイヤル オーク オフショア」。そのマッシュアップなケースは、スポーティーな見た目をもちたただけでなく、複雑機構を収めるのにも適していた。両者の高度な観点こそが、新しいロイヤル オーク オフショア ツールビヨン・クロノグラフである。

奥山栄一:写真
Photographs by Eichi Okuyama
広田雅将(本誌)、鈴木幸也(本誌):取材・文
Text by Masayuki Hirota (Chimono-japan), Yukiya Suzuki (Chimono-japan)

140年以上に亘る歴史を誇ってきたノウハブと天竺紗市を融合させた
オーデマ・ピゲ・マニュファクチュールは、他のウォッチメーカーによる
傑作のレベルを超えて、エン지니어リング、クラフト、デザインを確立
しています。

時計

「十・ゲマ・ヒツ」は、一説に江戸に伝わり、四ノ足（アサギ）の足跡を模したものであろう。



體驗

オーガニゼーションは単なる定常ではありません。今日も続くオーガニゼーションの発展を願って、その設計づくりのユニークなアプローチを期待します。

メイドインル・
ブラッシュ

ブティック検索

图 10-1-1 图例

潘和松

◆ 原在武備部に在りし



ロイヤル オーク オフショア クロノグラフ [1st Model]

(右) 1993年初出のRef.25721ST。ロイヤル オークのスポーティーさを強調した野心作。直径42mmという大ぶりなケースに、100mの防水性と高い耐磁性能を誇る。搭載するのは、ジャガー・ルクルト製の自動巻きに、デュボア・デブラ製のモジュールを兼ねたCal.2126/2840。日付表示が奥まったため、デュボアは拡大レンズを文字盤にはめ込んで、視認性を確保した。自動巻き。2万8800振動/時。パワーステアプ約42時間。SS、100m防水。

(左) ファーストロットの大きな特徴が、裏蓋からオフショアのロゴが省かれた点だ。量産型になってようやく「Offshore」のロゴが加えられた。



ロイヤル オーク オフショアをデザインしたのは、当時経営22歳のエマニュエル・ギュー。いわゆる「デザインそのものは難しなかった。むしろ大変だったのは、社内の反対意見を押し切ることだった」という。オーデマ・ピゲ退社後、フリーランスのウォッチデザイナーとして数多くの傑作を手掛けている。彼の作品には他にロレックス「チェリーニ」などがある。



初代ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフの展開図。頑強なインナーケースと裏蓋の内側に組み込まれた耐磁板。そしてかなり分厚いベッキンに注目。耐磁板が省かれた以外、オフショアのケース構造は現在に至るまで基本的に不変である。しかし、切欠技術の向上に伴い、ケースの精度は大きく高まっている。

ニューアイコン誕生秘話 四半世紀の格闘

The Birth of ROYAL OAK OFFSHORE



(右) エマニュエル・ギューによるロイヤル オーク オフショアのスケッチ。太くなったベゼル、ラバーをあしらったリュウズとプッシュボタン、そしてリュウズガードが目新しい。しかし、夜光を載せた過格(ジエンタ計)や、タペストリー模様の文字盤など、ディテールはオリジナルに極めて忠実だ。ジェラルド・ジエンタのデザインが好き。と公言するギューは、エクスパンションを手掛けるに当たって、原作の良さを残そうと努めた。(左) ロイヤル オーク オフショアの真意のスケッチ。ギューがデザインできるまでの試行錯誤を行ったことが分かる。後に、オフショアが量産されるに当たって、一番上のデザインが採用された。



1972年に誕生した「ロイヤル オーク」は、現在、高い人気を誇るラグジュアリースポーツウォッチの先駆けである。その約20年後、1993年に発表された「ロイヤル オーク オフショア」。ウォッチデザインの大豪、ジェラルド・ジエンタが手掛けたロイヤル オークの知名度を武器に、さぞや順風満帆なデビューを飾ったかと思いきや、その門出には思わぬ困難が待ち受けていた。すでにオーデマ・ピゲのアイコンとして、欠かせない存在となっていたロイヤル オーク オフショア。誕生時の苦闘から四半世紀にわたる発展の歩みを語る。

今や、ラグジュアリースポーツウォッチの祖と言っても過言ではない「ロイヤル オーク」。そのスポーティさをより強調したのが、1993年にリリースされたロイヤル オーク オフショアだ。企画者は、当時のCEOであったステファン・ウルクハート。デザイナーはオーデマ・ピゲの秘蔵子で、後に著名なウォッチデザイナーとなったエマニュエル・ギューである。

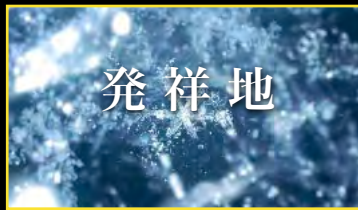
彼らの狙いは、約20年前にリリースされたロイヤル オークを若い世代向けに仕立て直すことだった。そのためウルクハートは、弱冠22歳のギューをデザイナーとして抜擢した。

ギューはクロノグラフこそ、スポーツウォッチに相応しいと考えた。モジュール型のクロノグラフを取めるために、ギューは、ケースの直径を42mmに拡大し、厚みも増した。加えて、防水性能を100mに向上させ、ケース内にはムーブメントを覆う耐磁ケースを加えた。

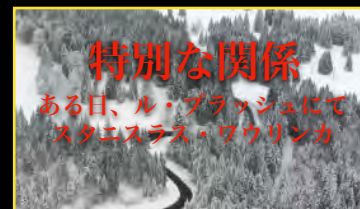
彼は直面上の、社内からの猛烈な反発だった。ギューは「ケースが大きすぎるし、重いし、コマースヤルでもない、と言われた」と当時を振り返る。オフショアの開発が進められた1990年代初頭、時計のトレンドは、薄く小さく、時計が主流であった。確かに直径42mmもあるクロノグラフは当時、売れないとみなされても仕方なかった。

1993年のバーゼル・フェア(現バーゼルワールド)に並んだオフショアに対して、関係者たちの反応も芳しくなかった。「こんな大きな時計が売れるのか」と尋ねたのは、当時ハリ・ウィンストンの時計部門でCEOを務めていたマキシミリアン・ブッサーである。オリジナ

TOP
ホームページ内VIDEO



INDEX

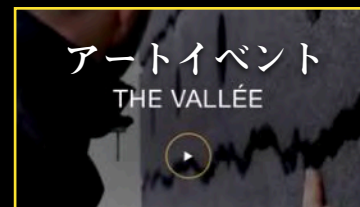


特別な関係
ある日、ル・ブラッシュにて
スタニスラス・ゴウリンカ

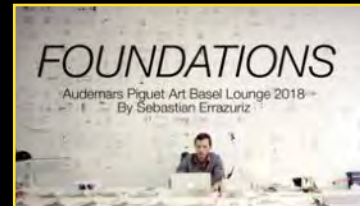
オーデマピゲの故郷



マンハッタンマスターズ



アート・文化サポート活動



アート・文化サポート活動



アート・文化サポート活動



1997

(右) 1997年、オーデマピゲはバーゼル・フェアのブースに自社の色違いのロイヤル オーク オフショアを展示した。今でこそ、イエローの文字盤は当たり前のだが、当時は極めて新鮮だった。搭載するムーブメントは、改良版のCal.2226/2840。Ref.25770ST。(左) オフショアの人気を決定付けたのが、1999年に発表された「エンド・オブ・デイズモデル」であった。ブラックPVD仕上げのケースが、オフショアのマッシュプスを一層強調している。世界限定500本。Ref.25770SN。



1999

ルモデルをデザインしたジェラルド・ジエントの反応は芳しく、彼は「私のデザインしたロイヤル オークを破壊した」と、オーデマピゲのブースに怒鳴り込んで来たという。

成功を確信していたのは、ウルクハートとギエのみ。しかし、この大きなクロノグラフは、社内内外の予想では裏腹に、たちまちヒット作となった。加えて、1999年の映画「エンド・オブ・デイズ」はオフショアの人気を決定的にした。同作で主演を務めたアーノルド・シュワルツェネッガーは、SS×ブラックPVDケースの「エンド・オブ・デイズモデル」(Ref.25770)を腕に巻き、世界中にオフショアをアピールした。高まる人気を受けて、オーデマピゲは毎年のようにバリエーションを拡大していった。

幸いにも、オーデマピゲはデザイナーにも恵まれた。エマニュエル・ギエの後継者であるクロード・エメネッガーは、1999年から2003年までの在任期間中に、メガ・タペストリー模様や、ラバー製のベゼルといった新しい試みをオフショアにもたらした。彼は進めた、よりスポーティという路線は当初、ロイヤル オークのエクステンションでしかなかったオフショアに、明確なキャラクターをもたらしただけである。

ちなみに、1993年から現在に至るまで、オフショアは大きく2回のモデルチェンジがなされている。1回目は、ムーブメントを目裏に置き換えた2006年。それ以前は耐磁板を備えていたが、自社製ムーブメントの採用に当たって裏蓋をシースルー化し、耐磁板を省いた。そして2回目は、直径41mmモデルを追加し、バックルなどに小さな変更を加えた。

2011年である。

2011年に加わった直径41mmモデルは、エメネッガーが追求したマッシュプスをより押し出した試みだった。ベゼルにはブラックセラミックが与えられたほか、ふたつのフッシュボタンはスエアに変更され、リユースガードの形状にはいくつかエッジが効かされた。その造形は、かつての限定モデルの要素を、より洗練させたもの、と言えるだろう。

オーデマピゲが、限定モデルのディテールを量産品といつても少し生産だに感じられ、加えて技術の進歩だった。とりわけ、ベゼルとフッシュボタンに用いられた、新素材のセラミックスは、ケイメーカリーの買収と、膨大な設備投資が可能になったものだ。

1993年のオフショアは、ケースを鍛造した後、切削で削り出す手法で作られた。確かに完成度は非凡だったが、工作機械の精度が高くなつたため、エッジなどはやがて、一方の2001年のモデルは、最新の工作機械で切削するため、切り立つようなエッジを持てるようになった。オーデマピゲの関係者いわく、「機械が新しいだけでなく、切削する工具にも年100万スイスフランを投じている」というから、ケースの出来が良いのも納得だ。加えて、オーデマピゲのケース部門には、いまだに職人技が残っている。ケースを回転する梨の木の板に当てて下地処理を施すという手法は、今やスイスでも極めて珍しいものとなった。

若い層を開拓するために生まれたオフショア。しかし、ミニユアークチュール化の進展は、このコレクションを、世代を問わずにラグジュアリースポーツウォッチに変質させたのである。

2003



(右) 2003年に発表されたのが、直径48mmの「ロイヤル オーク オフショア T3」である。映画「ターミネーター3」の上映を記念して1000本が生産された。今や世界的なコレクターアイテムだが、現行品に比べると、ケースの仕上げなどはやや甘い。Ref.25863TI。自動巻き(Cal.2226/2840)。Ti。100m防水。(左) 異素材への試みが、2015年発表の「ロイヤル オーク オフショア・オートマチック・トゥールビヨン・クロノグラフ」である。ムーブメントは、2011年に発表されたCal.2897を搭載する。自動巻き。世界限定50本。

2015



ROYAL OAK OFFSHORE CHRONOGRAPH

“New Model”



(左)最新の工作機械は、2018年のオフショアに整った面と切り立ったエッジを与えた、リュウズガードが示す通り、ケースの完成度は非常に高い。(右)文字盤にも手が入れた。フォントのデザインなどは、1993年モデルに同じ。しかし書体がわずかに太らされたほか、インデックスの刻みも、5分の1秒から、3分の1秒に変更された。2万1600振動/時のムーブメントの進針を正しく表示できるのは、3分の1秒刻みである。

単なる複製版に留まらない魅力を持つのが、2018年版の「ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ」だ。造形は1993年モデルにはほぼ同じ。しかし、オーデマ ピゲの推し進めるマニファクチュール化の進展と拡充は、25年前のデザインに際立った洗練をもたらした。

ロイヤル オーク オフショア誕生25周年を祝って、ファーストモデルが複製された。見た目は右ページの1993年モデルにはほぼ同じ。しかし、搭載するムーブメントが、Cal.2126/2840からCal.3126/3840に替わったほか、文字盤やケースに小改良が加えられた。また、ブレスレットの質感もさらに向上している。本作で注目すべきは、ケースのエッジ。かつてのオフショアは、鍛造+切削でケースを作っていた。しかし現在は、ほぼ切削のみでケースを製作する。工作機械の精度が向上したため、ケースの面は一層整い、エッジも明確に出るようになった。なお、オフショアを特徴付けるはっきりとしたヘアラインは、320番という比較的に粗いヤスリで付けられている。仕上げがラフにならないのは、下地の作り込みに時間をかけているため。粗削りです法を出した後、回転する梨木のディスクに当てて下地を整え、3種類の研磨材を使って形を整えていく。オーデマ ピゲらしいのは、温度管理の厳密さ。真鍮を当てて梨木のディスクの表面温度を上げるほか、研磨の際の音を聞いて、温度の高低を判断するという。自社製に切り替わったギョッシュ文字盤も、従来に比べて一層良質だ。分かりやすい手作業感はなくなったが、パターンが明確になったほか、青の発色も鮮やかになった。あえてダイヤモンドカットを施していないインデックスも、右ページの個体に比べて、表面の歪みが小さくなっている。もちろん、こういった部品も、オーデマ ピゲは自製している。



ロイヤル オーク オフショア
クロノグラフ [New Model]

2018年の復刻モデル。外装の作り込みは現代の技術によって仕上げられているため、質が上がっているのが、細部を見るとよく分かる。ムーブメントは自社開発のキャリバーに置き換えられた。自動巻き (Cal.3126/3840)、50石、2万1600振動/時、パワーリザーブ約50時間、SS (直径42mm)、100m防水、プッシュボタン、290万円。

ROYAL OAK OFFSHORE CHRONOGRAPH

“1st Model”



オフショアが人気を集めた理由は、スポーツウォッチとしての高い性能以上に、立体的な造形にあった。(左)ミドルケースと一体化された、当時としては極めて複雑な造形を持つリュウズガード。ベゼルとミドルケースに挟み込むバッキングも、立体的なものが選ばれている。(右)ロイヤル オークのバリエーションであることを示すギョッシュ仕上げの「プーチンベスティー」文字盤。文字盤の仕上げは、メッキではなくプリントである。



ロイヤル オーク オフショア
クロノグラフ [1st Model]

1993年登場のファーストモデル。2針、3針モデルが中心のロイヤル オークに対し、クロノグラフを押し出したスポーツモデル。ディテールやムーブメントは変わって、基本的なデザインは25年後の今も不変。自動巻き (Cal.2126/2840)、54石、2万6800振動/時、パワーリザーブ約42時間、SS (直径42mm)、100m防水、プッシュボタン、290万円。

この四半世紀で、一大マニファクチュールに変容したオーデマ ピゲ。新田のロイヤル オーク オフショア・クロノグラフは、その変化を知る好サンプルだ。1993年のファーストモデルと2018年の復刻モデルは、見た目がほぼ同じ。しかし、仔細に見ると、まったく異なるディテールを持っていることが分かる。

工作機械が進化する以前、各社は時計のケースを、基本的には冷間鍛造で製作していた。そこに一石を投じたのが、1993年発表の「ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ」である。鍛造したステンレススチールのブランクを切削して、立体的な形状を与える。今となっては当たり前だが、当時は最新の製法だった。それによって可能になったのが、ミドルケースと一体化したリュウズガードである。切削でリュウズガードを開け出すのが難しかったため、かつてのリュウズガードは形がシンプルか、複雑な場合は別部品だった。しかし、オフショアはケース製造に切削を多用することで、複雑なリュウズガードを、ミドルケースと一体化させた。ただし、工作機械の精度が高くなかったため、エッジの立ち具合はやや甘い。また本作は、デザインにも興味深い。クロノグラフは専門家向けと見なされていたため、インダイヤルに使われるフォントは、まず視認性を重視していた。オメガ「スピードマスター・プロフェッショナル」が採用する角張ったフォントがその好例だ。対してエマニュエル・ギュエは、新しいクロノグラフのためにまったく新しいフォントをデザインした。既存のスポーツウォッチとは違うものを作りたい、というオーデマ ピゲの意図を端的に示すディテールだ。なお、文字盤全体が白く見えるのは、サファイアクリスタル製の風防に無反射コーティングを施していないため。時代を感じさせる要素だ。

TOP

MUSICIAN
AUDEMARS PIGUET
La Brèche

ハイジュエリー

D.J.

INDEX

AUDEMARS PIGUET
PRESENTS
JANA WINDEREN
DU PETIT RISOL AU PROFONDEUR DU LAQ DE JOUX

アンドレア
ガルヴァーニ

ここ数年で急速に質感を高めるラグジュアリースポーツウォッチ。そのトレンドを牽引するのは、間違いなく「ロイヤル オーク オフショア」だ。立体的な造形を持つこのコレクションは、今や、緻密な仕上がりを持つケースや、鮮やかな色味の文字盤でも語られるようになった。



ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ

Ref.26470ST.00.A030CA.01。右のモデルの素材と色違い。極めて鮮やかなブルーは、メッキではなくラッカー仕上げである。また、ストラップと文字盤の色を完全に揃えるなど、細かい配慮も抜かりがない。このまともり感こそ、今のオプシスはAの強みである。基本スペックは右のモデルに同じ。SS. 270万円。



ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ

Ref.26470SO.OO.A002CA01。ベセルにセラミックス素材を採用した最新作。既存モデルと同じだが、質感がはるかに高く見えるのは、文字盤の色裏りが改善されたため。自動巻き(Cal.3126/3840)。59石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約50時間。SS×セラミックス(直径42mm)。100m防水。予価280万円。



ロイヤル オーク オフショア
ダイバー

Ref.1571101.00.A006CA.01. 18KPG製のミドルケースにチタン製のベゼルとリンクを合わせた既存モデルのエクステンション。写真が示す通り、ベゼルの緻密な仕上げが1/10とでもチタン製とは思えない。自動巻き (Cal 3120)。4石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約60時間。18KPG x Ti (直径 42mm)。300m防水。日本先行発売。プティック限定。予価340万円。9月発売予定。



ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ

Ref.26400SO.00 A054CA.01. 発色の難しいグリーンのセラミックス製ベゼルに、ページジュのグランド・タバストリー文字盤とカモフラージュ柄のストラップを合わせたモデル。自動巻き (Cal.3126/3840)。59石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約50時間。SS×セラミックス (直径44mm)。100m防水。予価325万円。



ロイヤル オーク オフショア・クロノグラフ

Ref.264700R.00.10000R.02。プレスレットまで18KPG製のモデル。極めて重い時計だが、ヘッドとプレスレットのバランスが取れているため、装着感は悪くない。重量級の時計だが、プレスレットの遊びは抑えられ、装身具としてきちんと使えるのが魅力だ。基本スペックは上のモデルに同じ。18KPG、720万円。

年譜本文と字盤とは別物と言っている。また、異書村の組み合わせも、オフシオンとの個性となりつてゐる。18KPGにチタンというコンビネーションは、普通どのメーカーもやりたがらない。しかし、オヤマビゲはチタという一種別材に、SSとチタンとを違う精緻な仕上げがりを与えることに成功した。

いわゆるラグジュアリースポーツウツツの中でも、今や別格の仕上げを持つオフシオン。機会があれば、実際に手に取つて見ればいい。外装の出来か言へば、現行オフシオンの完成度は、量産機の中でも最良である。

今年、25周年を迎えた「ロイヤル・オブショア」はキープコンセプトで内容が大きく進化させた。違いは外装である。1993年のオフショアは、ロイヤル・オークのスポーツ性を高める試みだった。以降、オフショアは質感を高め、やがてラグジュアリースポーツに相応しい外装を得るに至った。そしてここ数年、オフチームはコレクシオンの多様化に取り組んでいた。現在、オフチームは、オフショアを含むロイヤル・オークのケースすべてに、文字盤の大半を内製する。そのため、外装でさまざまな試みを行えるようになった。

1997年の限定モデル以降、オフチームはオフショアの文字盤に多彩な色を施してきた。それから約20年、オフショアらしいカラフルな文字盤は、下地の繊細さを残しながら、かつ鮮やかな色味を持つものになった。ラッカーの質が向上したことももちろん、内装化できたことが大きな理由だ。さらに、インデックスも自分で製造するようにした結果、より歪みは小さくなった。もはや10年前の文字盤とは別物と言っている。

TOP

サウンドの覚醒

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus

クロノグラフ

天文学 時の配置

藝術家



ロイヤル オーク
ミニッツリピーター・スーパースリ

Ref.26591PT.00.D002CR.01. 2015年に発表されたコンセプトモデル「RD#1」のリピーター機構を搭載したロイヤル オークのスーパーノズリ。このモデルが発する豊かな音色は、表蓋の内側に内蔵された音響管と裏蓋の間に設けられたスベールによって、ギターのように増幅されたもの。裏蓋サイドに設けられた8つの開口部から増幅された振動が外部に伝達され、澄んだ音色が響き渡る。裏蓋には、増幅された振動が象徴的に刻まれる。ブラック文字盤には、大ぶりのグランド・タペストリーがギョムシャマンによって刻まれる。手巻き (Cal.2959)、32石、2万1600振動/時、パワーリザーブ約72時間、Pi (直径42mm、厚さ14mm)、20m防水、ブティック限定、時価。



ジュエル オーデマ
ミニッツリピーター・スーパースリ

Ref.26590PT.00.D028CR.01. 上のロイヤル オークミニッツリピーター・スーパースリと同じく、「RD#1」からトゥールビヨン・クロノグラフ機構を省き、ミニッツリピーターに特化したムーブメントを、よりオーセンティックなジュエル オーデマに搭載したスーパーノズリ。もちろん、抜きんぐでた音質と音質はRD#1から受け継がれた独自の音響管とケース構造に由来する。文字盤には、高温で焼成されるグラフェン・エナメルが採用され、中心から外周に向かって深みのあるブルーがグラデーションを描く。加えて、インデックスとレイルウェイトラックもホワイトエナメルで描かれたという徹底ぶりだ。裏蓋には、本拠地であるル・ブラッシュの時計師をイメージした刻印が施される。手巻き (Cal.2944)、35石、2万1600振動/時、パワーリザーブ約72時間、Pi (直径43mm、厚さ13.15mm)、20m防水、ブティック限定、時価。



AUDEMARS PIGUET SUPERLATIVE COMPLICATIONS



ロイヤル オーク オフショア
トゥールビヨン・クロノグラフ

Ref.26348IO.00.A002CA.01. トゥールビヨン・クロノグラフはオーデマ ピゲの神髄である伝統と革新を象徴するモデルのひとつ。さらに、得意なスケルトン加工を施すことで、超一流の仕上げと装飾が際立つ。手巻き (Cal.2936)、28石、2万1600振動/時、パワーリザーブ約72時間、Ti (直径44mm、厚さ14.45mm)、100m防水、時価。

今年は、ロイヤル オーク オフショア誕生25周年であり、例年以上にオフショアに注目が集まるが、オーデマ ピゲの神髄は、伝統と革新にある。同社の本拠地であるル・ブラッシュを含むジュウ渓谷に伝わる伝統的な時計製造技術と、その伝統技術を基礎としながらも、常に新しいことを求める革新性。一見、相反するように思えるこの伝統と革新を見事に両立し、最もオーデマ ピゲの哲学を体現するのが、ここで紹介する数々のコンプリケーションたちだ。



(上)曲線を用いたレバー類の取り回しも魅力的な水平クラッチ式クロノグラフムーブメントをスケルトン化し、手作業で最上級の仕上げと装飾が施される。(下)ベゼルとプッシュボタンにはブラックセラミックスが採用される。使いセラミックス製とはいえ、ロイヤル オークのデザインコードにのっとり、ベゼルの上面にはヘアライン、面取り部にはポリッシュ仕上げが施される。



TOP

アート・文化サポート活動

アリン・ルンジャー

VOYAGE

By Ann Rungang

LARS JAN,

AUDEMARS PIGUET ART COMMISSION PRESENTS
SLOWMOVING
LUMINARIES

ゆるやかに動く光

孫遜(スン・シュン)
宇宙の再構築

テオ・ヤンセン
ストランドビースト

ロバン・マイヤー

AUDEMARS PIGUET
Le Brasserie

Art Basel
Miami Beach | 2014

シンクロニシティ

INDEX

ROYAL OAK TOURBILLON EXTRA-THIN



ロイヤル オーク
トゥールビヨン・エクストラ シン

Ref.26510PT.OO.1220PT.01. ロイヤル オーク・トゥールビヨン・エクストラ シンのプラチナモデル。プラチナはチタンほどではないが、素材が稀なため、量産性に数えられる。このプラチナモデルもロイヤル オークのデザインコードにのっとって、ベゼルとケースの上面とサイドにはヘアライン。面取り部にはポリッシュが施されるが、右下のSSモデルの仕上げと比べても見分けがつかないほど、エッジは立ち、ポリッシュ面にもまったく歪みがない。手に持った時のずりりとした重量感がプラチナの証しだ。手巻き (Cal.2924)。25石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約70時間。Pt(直径41mm、厚さ8.95mm)。50m防水。プッシュ限定。時価。



ロイヤル オーク
トゥールビヨン・エクストラ シン

Ref.26510P.OO.1220P.01. ロイヤル オーク・トゥールビヨン・エクストラ シンのチタンケースモデル。ただし、ベゼルとリンクはプラチナ製。それを際立たせるため、通常はヘアラインが入れられるベゼルとリンクの上面はポリッシュ仕上げが施され、チタンケース上面のヘアライン仕上げと明確な対比をなす。裏側はスチールバック仕様で薄型トゥールビヨンムーブメントを鑑賞できる。下のSSモデルと左ページのプラチナモデルに比べ、受けがより肉付きが良く、凝った装飾が与えられている点にも注目。手巻き (Cal.2924)。25石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約70時間。Ti×Pt(直径41mm、厚さ8.95mm)。50m防水。プッシュ限定。時価。

イブティック
TOP



オーデマ ピゲ ブティック 銀座

ブティック | リービスモンター

☎ +81 3 6830 0788

✉ boutique.ginza@audemarspiguet.com

📍 6-5-13 Ginza, Chuo-ku Tokyo104-0061 Japan

来店予約をする

方向を取得する

ザ アワーグラス 銀座

Ref.1881

☎ +81 3 5537 7888

📍 Royal crystal ginza 5-4-6 ginza chuo-ku Tokyo 104-0061 Japan

方向を取得する

ベスト新宿

Ref.1881

☎ +81 3 5360 6800

📍 東京都新宿区新宿3-17-12

方向を取得する

ヨシダ

Ref.1881

☎ +81 3 3377 5401

📍 東京都渋谷区幡ヶ谷2-13-5

方向を取得する

20世紀に刻まれた傑作複雑時計

オーデマ ピゲ コンプリケーションブック



創業当初から、懐中時計において永久カレンダーやミニッツリピーターを手掛けてきたオーデマ ピゲ。20世紀に入ると、それらの複雑機構を次々と腕時計に搭載した技術力もまた同メゾンの注目を集める力源だ。オーデマ ピゲが20世紀に製作した複雑時計の名称を記録したのが、このコンプリケーションブックである。コレクター、ウォッチマニア必見の1冊だ。単売品。詳細は下の問い合わせ先まで。



ロイヤル オーク
トゥールビヨン・エクストラ シン

Ref.26516PT.ZZ.1220PT.01. ベゼルにバゲットカットダイヤモンドがセッティングされたロイヤル オーク・トゥールビヨン・エクストラ シンのプラチナモデル。ロイヤル オークをアイコンとして成立させている象徴のひとつである、ベゼルに配された8つのビスを残しつつ、ダイヤモンドがあらわれる。バゲットの面が削られているため、ダイヤモンドはベゼル上で過剰なく輝く。手巻き (Cal.2924)。25石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約70時間。Pt(直径41mm、厚さ8.95mm)。50m防水。プッシュ限定。時価。



ロイヤル オーク
トゥールビヨン・エクストラ シン

Ref.26512ST.OO.1220ST.01. ロイヤル オーク・トゥールビヨン・エクストラ シンのSSモデル。文字盤のプッチ・タペストリーは、1960年代～70年代にスイスのラインハルト社で製造された手動のギョシェマシンを自動化して刻まれている。このモデルはブラックダイヤルで、上のモデルはスモークブルーダイヤル。左ページのモデルはスモークグレーダイヤルで、いずれも文字盤は内製化されている。カラーは塗装で仕上げられ、プッチ・タペストリーの繊細なパターンを役立たないように、ごく薄く吹き付けられる。手巻き (Cal.2924)。25石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約70時間。SS(直径41mm、厚さ8.85mm)。50m防水。プッシュ限定。時価。

The New Museum
Is Coming
Next Year.....



AUDEMARS PIGUET 2018

www.audemarspiguet.com/jp

CONTENTS

オーデマピゲ

ロイヤルオークオフショア
誕生25年のクライマックス

TOP



INDEX